

「紅葉に学ぶ」

校長 岩本 眞由美

猛暑が長く 10 月になっても夏日があり、やっと秋らしさを感じ、紅葉を見ることが出来る季節になってきました。モミジやカエデの葉が緑から赤に変わるのが、なぜなのか気になり、その仕組みを調べてみました。

紅葉の仕組み

葉にはクロロフィル（葉緑体）という緑色の色素が多く含まれている。このクロロフィルが光合成で養分を生成する重要な役割を担い、春や夏は強い光を浴び、盛んに光合成を行う。

秋は気温も下がることで、光合成の効率が落ちていく。すると、植物は光合成に必須であったクロロフィルを分解し、養分に変える戦略をとる。その際に、緑色のクロロフィルの代わりに、光を吸収するアントシアニンという赤色の色素を生成することで、葉が赤くなる。さらにアントシアニンは、秋の弱くそれでも高エネルギーな太陽光から植物を守る働きがある。

わかったことは、春・夏はクロロフィルで太陽光を吸収して光合成し、反対に秋はクロロフィルを減らし、アントシアニンで太陽光から植物自身を守るということでした。光合成に必要なクロロフィルを分解して養分にするので、冬に対応する植物の柔軟さに驚くとともに、アントシアニンを生成することで、太陽光を防御する植物にたくましさを感じました。中学校生活においても、植物にとっての春・夏のような順風満帆なときもあれば、秋・冬のような厳しいときもあると思います。

光合成に必要なクロロフィルを分解して養分にするというのは、想定しにくい対応方法です。時に私たちは選択肢が1つだと思い込みがちですが、上手くいってないときに他の選択肢を考えてみると、新しいアイデアに気付くこともあります。自らを振り返ると、柔軟な思考が年々できなくなり、先入観にしばられていることがたくさんあると反省しました。

私たちが生きていく現代社会では、正解は無く、みんなが納得できる解を求め続けなければならない課題が多々あります。また、突発的かつ大きな変革を求められることもあります。経験が役に立たなかったり、むしろそれらがマイナスに働いたりすることもあるでしょう。そのようなとき、紅葉に学ぶことがあるのではないかと思います。紅葉の仕組みは分かっていますが、どうして植物が紅葉するようになったのかは謎が多いそうです。試行錯誤といった挑戦と失敗の繰り返しの先に、紅葉という進化があったのでしょうか。積極的に光合成をする季節、光合成に必須なクロロフィルを分解して耐える季節、木々はそのような日々を通して少しずつ幹を太くします。私たちも、日々を一生懸命に過ごし、成長していきましょう。



【11・12月の主な予定】

18日(月) …期末考査 ～20日	12月2日(月) …全校集会(駅伝壮行会) 月⑥
20日(水) …専門委員会・学校委員会	4日(水) …職員会議
22日(金) …震災救援所訓練(1年)	5日(木) …面談週間(始) ～11日(水)
24日(日) …英語スピーキングテスト(3年)	8日(日) …区駅伝大会
25日(月) …生徒朝会	12日(木) …避難訓練
26日(火) …校外学習(2年)	13日(金) …移動教室保護者会(2年)
30日(土) …土曜授業	16日(月) …生徒朝会 月⑥

※今月の主な予定は発行時点のものです。社会情勢等の変化により、変更となる場合があります。

教育活動の紹介

大きな予定の変更などは、tetoru 等でお伝えします

【生徒総会 10月22日(火)】

後期委員会の活動方針を学校全体で確認し、みんなで学校をよりよくするための目標や取り組みを承認しました。後期は2年生が生徒会・委員会の中心となって活動していきます。各委員長はそれぞれ話しあった内容を自分の言葉でしっかり伝えていました。学校全体で真剣に話を聞き、質問に答える場面もあり、良い生徒総会になりました。



【合唱祭 10月30日(水)】

10月16日(水)から合唱祭の練習期間が始まると、朝と午後の練習時間に校舎のあちこちで歌声が聞こえるようになりました。日に日に歌声が透き通った響きに変わっていき、学年のリハーサルを経て、美しく力強い響きになって合唱祭当日を迎えることができました。

それぞれの学年・クラスの気持ち「想い」のあふれる合唱を作り上げることができたと思います。特に3年生は、繋がれた『合唱の東原』の良さを合唱と、それに向かう全てで表現し、次に繋いでいこうという意気込みがありました。学年・クラスによらず、お互いに高め合い、磨き合い、素晴らしいものを認め合う行事になったと思います。来年度もよろしくお願いします。



杉並区立東原中学校 学校だより「ひがしはら」

Tel : 03-3390-0148 Fax : 03-3390-3588

【留守番電話対応 18:30～7:30】

